

経済倶楽部便り

◆東京◆ 5月最後の講師は東短リサーチ社長の加藤出氏が久しぶりに登壇されました。植田和男日銀新総裁の金融政策と日本の構造問題についてお話し頂きました。金融政策正常化の遅れが円安に繋がっており、それがさらなる輸入インフレの原因にもなる悪循環に警鐘を鳴らされました。7月号に掲載予定です。

5月末に開催された会員総会で2022年度の収支実績と2023年度の収支見通し、活動報告、理事・監事の人事が承認されました。引き臨時理事会を開催し、理事長が柴生田晴四から前東洋経済新報社社長の山縣裕一郎に代わる

ことが了承されました。

7月の講師は琉球大学准教授の山本章子氏、慶應義塾大学名誉教授の國分良成氏、ノンフィクション作家の塩田潮氏を予定しています。

◆中部◆ 5月の講師にさわかみホールディングス代表の澤上篤人氏に来て頂きました。「世界全体の債務はGDPの3・5倍に膨張。そこにインフレが到来、債券価格が下落し、体力の弱い金融機関が倒れる時代に入ってきた。ただ、世界の人口は増え続けるため、経済成長も続く。ITなどでなく、生活に不可欠な製品を扱う企業の株式に投資すべきだ」と話されました。

7月の講師は笹川平和財団上席研究員の小原凡児氏、(一財)日本総合研究所会長の寺島実郎氏を予定しています。

(日暮良一)